

西深津学区まちづくり推進委員会

委員長 山岡 孝幸

（問合せ先）084-924-6009（西深津交流館）

## 事業内容

- (1) 第45回学区民運動会（5月21日） 450人
- (2) 学区納涼盆踊り大会（8月5日） 500人
- (3) にしふかつ文化祭（10月21日・22日） 450人
- (4) 人権週間記念事業（12月2日） 129人
- (5) とんど行事（1月12日） 350人
- (6) 蓮池川清掃（5月～10月）6月と10月は全市一斉清掃を兼ねる。のべ197人
- (7) 生きがいつくり事業（通年）延べ192人の参加
  - ①「レクでいきいき仲間づくり」（5月30日みんなで楽しくゲーム大会Part1・11月30日みんなで楽しくゲーム大会Part2）
  - ②「お正月用フラワーアレンジメント講座」（12月25日）
  - ③「こどもマルシェ」（1月27日）
- (8) こども土曜クラブ（年間10回実施）延べ435人の参加
- (9) 学区まちづくり研修：高知市種崎地区「津波避難センター」ほか（11月12日）44人の参加
- (10) 防災研修会「避難所運営ゲーム(HUG)」（8月30日）33人の参加  
学区防災訓練・研修会（11月26日）294人の参加
- (11) コミュニティ育成事業（通年 学区内13町内会）
- (12) まちづくり推進委員会運営事業（通年 交流館）



10/21・22 にしふかつ文化祭



1/12 とんど祭り



1/27 こどもマルシェ

## 成果

コロナ禍以前の形に戻して、ほとんどの事業は実施することができました。人々が集えば、会話が生まれ、笑顔が見られます。そんな場面を多く見ることができました。実施するにあたり、かつてのやり方を見直す必要もありました。熱中症対策のために、学区民運動会を午前中で終わられるようにしたり、盆踊りの櫓をひな壇にし、組立・解体の作業の軽減などをおこないました。

## 課題

“町内会離れ”が、コロナ禍の影響により進んで来ている傾向があります。一人住まい・高齢者夫婦世帯の増加が進み、町内会役員のなり手の問題等がその要因となっています。単一町内会では解決できないことも増えつつある状況にあります。

## 課題解決に向けて

日常生活を送る上での高齢化問題等による生活課題・地域課題は、今後益々重要な事案となります。町内会・自治会活動を通じて住民ニーズ・地域課題等の把握に努め、課題解決に向けた福祉関係機関等との連携、地域の人材発掘・人材育成の視点からの“地域で出来ることは地域で解決できるまちづくり”をめざしていくことが益々重要になるように思われます。

また、地域のデジタル化を重点課題として取り組む必要があります。

好きです西深津・絆を結ぶまちづくり



We Love Nishifukatsu !

にしふかつ  
しあわせ あられる  
ふるさとに  
かがやく えがお  
つなごう きずな

2024年、西深津学区創立45年を迎えます。コロナ禍に入る前の2019年にちょうど40周年を迎え、様々な場面で“節目”を迎える機運の高まりを感じました。4年余りのコロナ禍は、色々な提起を示したように思います。地球温暖化の影響による自然災害や近い将来の発生が言われて久しい南海トラフ地震や津波等に対する“備え”，益々すすむ少子高齢化社会が生み出す課題，日常生活を送る上で発生する“困りごと”等々，学区内にもさまざまな形の解決していかなければならない課題もあります。それらのことを振り返る時，西深津学区で掲げているスローガン『好きです西深津・絆を結ぶまちづくり』は，改めて，その重要性和目指す方向を示すものであるように思います。

5年後10年後，さらにその先の未来のために，『好きです西深津』をスローガンから合言葉にして，“今できることをできるところから”繋げていきます。

## すべては子どもたちのために ~こども土曜クラブ~

学校五日制に伴って、「土曜日の子どもたちの居場所づくりを」という趣旨で，2002年からスタートした「こども土曜クラブ」は，まちづくり推進委員会主催・各団体主管のもと，学校とも連携して取り組んでいます。“地域を知る”“地域の人を知る”機会のひとつとして，子どもどうしの仲間づくり，“学び”の機会のひとつとして，取り組んでいます。



7/1「ドッジボール大会」



7/15「蓮池川自然体験・環境学習」



10/28「ソフトバレーボール大会」



11/25「クラフトでミニかご作り」



12/16「しめなわづくり」



3/2「蔵王山ハイキング」